

# ヒトラー虚像の独裁者

著者: 芝 健介

190781068 岩瀬華蓮

# はじめに

- ★ヒトラーとは何者だったのか
- ★ヒトラーの成し遂げたこと
- ★「ヒトラー神話」を解明
- ★現代史を総合的に捉え直す



# 少年アドルフ

a) 1889年4月20日

b) オーストラリア生まれのオーストラリア人

c) 1932年にドイツの大統領選挙の際にドイツ国籍を取得

d) カトリック教徒

## 1913年(24歳)

a)24歳で父親の遺産を取得

b)ウィーンを出国

c)ドイツのミュンヘンへ

理由:オーストリア軍への兵役からの逃走

→「我が闘争」で本人は政治的な理由と主張

## 1914年(25歳)

- a) WW I にドイツ帝国が参戦
- b) バイエルン軍に義勇兵として志願
- c) バイエルン歩兵第16予備連隊に配属
- d) ヒトラーの任務は伝令

## 1918年(29歳)

- a) マスタードガスによる一時失明とヒステリーにより野戦病院に収監
- b) 入院中にWW I が終結
- c) 最終階級は伍長勤務上等兵

## 1919年(30歳)

- a) 革命中のバイエルンでレーテに参加、大隊の評議員へ
- b) 革命政権崩壊後、政府軍がミュンヘンを占領
- c) 軍属諜報員として雇用
- d) ドイツ労働者党への潜入調査を担当

## 1920年、1921年

- a) ドイツ労働者党の活動に傾倒、軍を除隊
- b) 党は国家社会主義ドイツ労働党に改名
- c) 党内抗争で初代党首アントン・ドレクスラーを失脚
- d) 第一議長に就任
- e) フューラーの呼称



## 1923年、1924年

- a) ペニート・ムツソリーニのローマ進軍に触発
- b) ミュンヘン一揆は失敗
- c) 警察に逮捕
- d) 禁錮5年の判決
- e) ランツベルク要塞刑務所に収監
- f) 12月20日に仮釈放

1932年

a)ドイツ国籍を取得

b)大統領選に出馬

c)決選投票でヒンデンブルクに敗北し落選

d)しかし国会選挙では第一党に

e)躍進してさらに影響力を向上

1933年

- a) ヒンデンブルク大統領から首相指名
- b) 全権委任法制定、一党独裁体制を確立

1934年

- c) 突撃隊幹部を粛清・独裁体制を強化(長いナイフの夜)
- d) ヒンデンブルク病没
- e) 大統領の職能を継承
- f) 国家元首となる(総統)

# ヒトラー国家

1939年(50歳)

a) チェコスロバキアへ武力恫喝

b) チェコを保護領に、スロバキアを保護国化(チェコスロバキア併合)

c) 独ソ不可侵協定を締結、ポーランド侵攻を開始、WW II が勃発

→ポーランド軍による侵入への反撃という建前

d) 宣戦布告なき対ポーランド戦争は正当化

# ヒトラー国家

- a) 1940年ドイツ軍がノルウェー、デンマーク、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、フランスに侵攻
- b) 1941年ソビエト連邦に侵攻を開始(独ソ戦)
- c) アメリカに宣戦布告
- d) 1943年スターリングラードの戦いで大敗

# ヒトラー自殺

a) エヴァ・ブラウンと結婚

b) ベルリン内の総統地下壕内で自殺

→ 青酸カプセルを服用・銃で頭を射撃

# ヒトラーの遺書

- a) ホロコーストを遠回しに自らの功績として自画自賛
- b) デーニッツを大統領・国防軍最高司令官に指名
- c) ゲッベルスを後継首相に指名

# ニュルンベルクの裁判

目的: ナチ・ドイツ国家の罪を追求

a) 被告人のほとんどがヒトラーを非難

b) 犯罪に対する自らの責任は否認

c) 責任を擦り付けようと被告人同士の罵り合いもあり



# ヒトラー像

a) 東独では「ファシストのけだもの、野獣」

→ 戦時中のヒトラー像の延長

b) 西独では「デーモン・魔力を持つ悪霊的存在」

→ 戦前はカリスマ的指導者像・総統神話

→ 敗戦後に180度逆転

# ヒトラー神話

無数の犠牲は、ヒトラーの一党独裁と戦争、破壊への意思

重要原因：指導者原理への固執、軍やドイツ国民の無責任な盲従

服従心、根深い道徳的崩壊

# ヒトラー時代から見る現代史

ヒトラーの時代は安倍政権全盛時代の日本のような「忖度」  
かつての日本の私たちも「滅私奉公」の道  
→現代史の見方の再検討が必須